

⑦ 門冠りの木（もんかぶりのき）

門に少しかぶるように門の近くに植栽します。クロマツ、ラカンマキ、ゴヨウマツ等が用いられることが多いです。

⑧ 見付きの木

門、園路の前方の目立つ場所に植栽する樹木。大きくて姿のよい、ケヤキ、イチョウ、カヤ、モッコクなど。

⑨ 見返りの木

門の内側にあって、帰りに目立つよう門付近に植えられるもの。見付きの木と同じく大きくて姿のよい樹木が用いられます。

⑩ 鉢請けの木（はちうけのき）

手水鉢の水面の上に枝葉を差し出すように植えられます。虫を避けるため、虫の嫌うナンテン、ウメ、サカキ、ニシキギ、アセビ等が用いられます。

⑪ 鉢囲いの木（はちがこいのき）

鉢囲いの木は手水鉢等の周囲に植えられます。マツ類等の樹木・竹類・草本類が用いられます。

2 移植・植栽

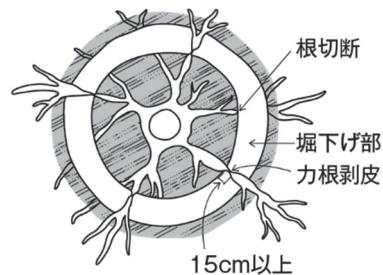
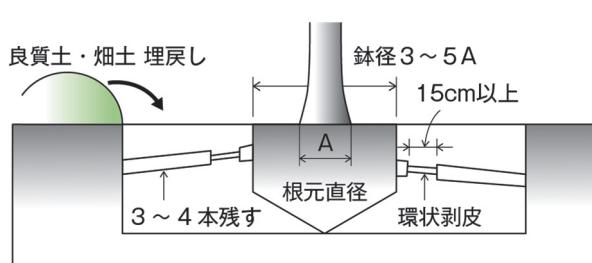
樹木を新しく植栽するためには樹木を移植させる必要があります。移植は、大部分の根を切断し植物に大きな負荷を与えるため、適切な時期に、樹種に応じた方法で施工しなければ最悪の場合枯死する場合があります。

(1) 根回し

樹木は、根の末端部の細根、根毛から水分や養分が吸収されています。幹に近い根元の根は太く、樹木地上部を支持する役割を持っています。根元部分の根には水分や養分を吸収する機能が少なく、掘取りによって根の先端部が切断されると、樹勢を減退させる要因となります。このため、移植が困難な樹種、老木や貴重木などにおいては、植栽後の活着をより向上させるために、根回しによって細根の発生を促す措置を施すことを推奨します。根回しには、溝掘り式と断根式の2通りの方法があります。

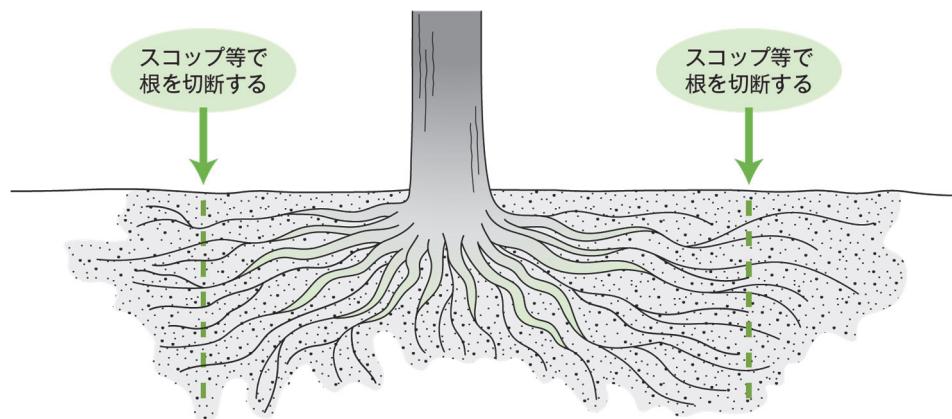
① 溝掘り式

根鉢の掘込み時に支持根となる太い根を3～4本残し、他は根鉢に沿って切斷し、切口は切り直します。残した支持根は15cm程度の幅で環状剥皮を行い、剥皮部からの発根を促します。この状態で、根巻き、仮支柱を設置し埋戻しを行います。その後、枝葉を剪定し、地上部と地下部のバランスをとります。



② 断根式

幹の周囲を掘り回し、側面の根を切り離します。比較的、浅根性の樹木に用いられます。



基本的に根回しの時期は植物の成長に合わせ、春の萌芽前が最もよく、遅くとも秋までが適期とされていますが、完全に根を切斷しないことから、移植と比較するとダメージが低いため、必要な場合は厳寒と酷暑を除けば行っても問題はありません。

春に根回しを行った樹木の移植は、落葉樹ではその年の秋、または翌年の春先、常緑樹では翌年の春から梅雨期に行うのが適期です。状況によっては、さらに1年後にずらすこともあります。

針葉樹は移植が困難なものが多いため注意が必要です。春期の萌芽前に根回しを行い移植は翌年の萌芽前が適しています。

(2) 掘取り方法の種類

根の状況や樹種にあった掘取り方法をする必要があります。主に4つの方法に分けることができます。

① 根巻き

根鉢に土を付けたまま掘り上げ、根鉢が崩れないように縄等で十分締め付けて掘り上げる方法です。土付法ともいい、針葉樹、常緑樹、あるいは適期以外の落葉樹に用いられます。

② 振い

大きめの鉢で掘り上げ、鉢土を落とし、縄等を巻かずに直接植え込む方法です。移植適期の落葉樹に用いることができます。

③ 追掘

根を切らないよう、先端まで追いかけて掘り取る方法で、たぐり掘りとも呼ばれます。根を切断することで活着が難しくなるフジ、ネムノキ、ジンチョウゲ、ボタン、ツタ等に用いられます。

④ 凍土法

根鉢の部分が凍結してしまうような寒地域において、根の周りを掘り起こしてそのまま植え込む方法。完全に休眠している落葉樹で土くずれの心配がない場合に用いられます。

移植に適した時期（関東）

針葉樹：2月上旬～4月中旬。このうち最適期は3月中旬～4月上旬の萌芽前。

続いて9月下旬～10月下旬。

常緑樹：最適期は4月初旬～4月下旬の萌芽期。

続いて6月下旬～7月下旬の梅雨時期。

落葉樹：最適期は2月上旬～3月下旬の萌芽直前期。

続いて11月下旬～12月下旬の落葉時期。

タケ類：地下茎の成長が始まる時期。モウソウチクは4月上旬。

③ 掘取り作業の注意点

① 掘取り前

乾燥が激しい場合には、掘取りの数日前までに灌水をして植物体内に水分を蓄えさせる必要があります。上部の枝は、不必要的枝は剪定により取り除き、掘取りの際に支障にならないよう上に向けて幹にしばり付ける（枝しおり）作業を行います。また、表土部は柔らかくてくずれやすいので、固いところまでかきとり掘取りに備えます。

② 掘取り作業時

樹木を掘り上げる場合には、土を一定の大きさの独楽型に掘り取ります。この独楽型になった根の部分を根鉢、または単に鉢と呼びます。根鉢の大きさは、一般的には、幹の根元直径の3～5倍が適当とされています。ただし、深根性の樹種では直径よりも深さを重視し、浅根性の樹種では浅めにして直径を大きくするなどの配慮が必要です。

掘取り作業時には、強風による倒伏もありうるので、ふれ止めとなる仮支柱をつける必要があります。



NOTE

③ 運搬

根巻きが完了した樹木の直根を切り、樹木を倒します。この際に、直根の切口が粗雑な場合は、再度、鋭利な刃物で切り直す必要があります。切断面が大きい場合には、発根促進剤などを塗るなどの処置を施します。植栽までに時間がかかる場合には、直根部分を濡れたコモなどで乾燥防止対策を行います。

樹木の枝が積込み作業や運搬時の支障となる場合、枝しおりを行い、難しい場合は支障になる枝を剪定（枝おろし）します。樹木の積込みや運搬時には、樹皮を損傷しやすいので、縄巻き、むしろ巻き、さらにその上に堅板材などを巻いて保護します。早春では樹液の流動が始まって、樹皮が簡単にはがれるので十分に注意する必要があります。

運搬時は、樹木の乾燥や風による損傷を防ぐため、シートなどで覆い必要に応じて蒸散抑制剤を散布します。

④ 植栽

① 整枝剪定

根の切断により水分の吸収作用が低下しているため、整枝剪定を行い水分供給と消費のバランスをとります。剪定の順序は、折損したもの、からみ枝・徒長枝などの不要の枝の順とし、最後に枝葉密度や樹冠を整えます。

② 植穴掘り

植栽計画（配植図）や樹木の性質、形状寸法、障害物などを考慮しながら、植え付ける位置を決めます。位置が決まつたら、植え付ける樹木の根鉢より少し大きめの余裕をもった植穴を掘り、底は柔らかく碎いた土で中心が高くなるように底上げします。植栽にふさわしくない土の場合には、土壤改良や客土を準備しておく必要があります。元肥をする場合には、根が肥料に直接当たらないように注意します。

③ 立込み

樹木の表や裏、周辺の景観などを考慮して、見栄えが最もよくなるように、植穴に樹木を立て込み、植栽位置の微調整を行います。根巻きが化学繊維の縄や紐だった場合は取り外します。

④ 埋戻し

埋戻しには、水極めと土極めの2種類の方法があります。

水極め：埋め戻した土が鉢と密着するように、水を注入しながら棒でつき、植え込む方法で一般的に広く用いられます。

土極め：埋戻し土を棒でつつきながら少しづつ入れ、鉢に密着させていく方法。このとき、水は使わないことから「からぎめ」とも呼ばれ、水気を嫌うマツ類やジンチョウゲなどに用いられます。

植栽後の養生

植え付けた樹木に灌水のため、水鉢を設けます。水がたまるように、鉢の外周に沿って土手を盛り上げる方法と、鉢の外周に溝を掘る方法があります。



灌水は、植栽直後や夏期の高温期は頻繁に行った後、回数を段々と減らしながら樹木を慣らしていく必要があります。夏期の灌水は早朝または夕方が望ましく、日中は避けておこないます。

また、夏の日焼けや凍害を防止のため、樹皮からの水分蒸散を防止するために幹肌が薄い樹種や暖かい地方が産地の樹木、巨木・老木、適期でない時期に移植した樹木には幹巻きを施します。

3 造園樹木と支柱

移植によって植え付けられた樹木では、風などでゆられることで新根が切断される恐れがあり、活着の遅れや枯損の原因となることがあるため、支柱の設置が必要です。

(1) 支柱の種類

① 添え柱支柱

樹高が低い（樹高 1.5～2.5m）場合で、幹に添えるもの。

② 二脚鳥居

2脚の柱に横架材を取り付け、幹を支えるもの（幹周 9～29 cm）。
添え木付は、樹高 2.5m以上。

③ 三脚鳥居

3脚の柱に横架材を取り付け、幹を支えるもの（幹周 30～59 cm）。

④ 十字鳥居

2組の二脚鳥居を十字に組み合わせたもの（幹周 30～74 cm）。

⑤ 二脚鳥居組合せ

二脚鳥居を前後に設置し、横架材 2本を追加して四方から幹を支えるもの（幹周 40～89 cm）。

⑥ 布掛

植付間隔が狭い場合や、列植のようにまとめて植え付けられた場合、横架材を渡し、両端・中間部分を斜材で支えたもの。

- ・竹：幹周 9～19 cm 樹高 2.5mまでの列植
- ・丸太：幹周 20～49 cmまでの列植

⑦ ハツ掛

一般に 3 本の支柱で幹の高位置に支持するもの。

- ・竹：幹周 20 cm未満 樹高 2.0m以上
- ・丸太：(三本) 幹周 20～89 cm (四本) 幹周 90～149 cm